

松本竣介

東京・渋谷生まれで幼少期に岩手県盛岡市で育った。第二次世界大戦前から戦後にかけて活躍し、36歳の若さで夭折した洋画家。中学校入学直前に病気で聴覚を失い、兄から油彩道具を贈られたのをきっかけに絵を描くようになった。東京に戻ってからは、多くの仲間と交流しながら、本格的に絵の勉強をし、さまざまな画風を試みている。青系統の透明な色調でいくつもの都会の風景のイメージを重ね合わせた中に人物を描いた作品や、戦中時には茶系統のくすんだ色調で都会の風景を描いた作品などがある。竣介は都会の風景を詩情豊かに描き、戦後の困難な時代に立ち向かう姿勢を描いた作品は、没後、高い評価を受けるようになった。